

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902306		
法人名	有限会社 健昭会		
事業所名	グループホーム 太陽と緑 太陽棟		
所在地	北海道旭川市旭神町19番地36		
自己評価作成日	平成27年6月28日	評価結果市町村受理日	平成27年7月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902306-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成27年7月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別的な介護を実践して行く為、利用者様の思いに寄り添い、職場の都合ではなく利用者のリズムに合わせて対応出来るよう、努めている。また本人、家族の希望や要望に対しては達成出来るよう職員間で共有、協働するよう努めている。町内会の行事は出来る限り参加をして、地域の人々との交流を大切にしている。協力医療機関の支援を受け、看護師との連携も密であることで、利用者様への確かなケアと急変時にも素早く対応できるので、安心して暮らしていただくことができると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年度より、外部より専門家を招聘したり、職員のキャリアパスの導入や年間内部研修会開催計画の作成等で組織体制を整備してケアサービスの質の強化に努めている。また、古紙回収や地域の清掃事業、アイスキャンデル等への参加で地域との交流に努めていたり、本人との日常生活の会話や行動・表情等からニーズや問題点を発見し、一人ひとりの生活リズムの構築と、本人の思いに沿った暮らしができるよう支援をしている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については、スタッフが毎日振り返れるよう、事務所に掲示してあり、不定期で唱和を行ない理念を意識しながら、職務に就いている。	事業所独自の理念を掲げ、見やすい場所に掲示して職員間で共有し、その実践につなげている。また、職員によるケア理念の作成を検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	古紙回収、掃除、アイスクャンدل作成など、町内会行事には参加し、地域の一員としての自覚を持ち関わっている。	事業所主催の夏祭りへの参加を地域の人々に呼びかけたり、町内会の清掃やアイスクャンدل作成に協力するなど地域との連携・協力を努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状では不十分であり、今後地域の認知症ケアの拠点として、情報発信をしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、御家族、町内会、地域包括支援センターの職員に参加していただき、状況報告やサービス向上のための話し合いが出来ている。	運営推進会議は、年6回を目安に開催して事業所の取り組み状況や日常生活の様子など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かせるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より生活保護課、介護高齢課、指導監査課などと密に連絡が取れており、助言や指導をいただいている。	市担当者や包括支援センター職員とは、日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築けるよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては防犯の側面もあり、現状解錠する予定はないが、身体拘束に関しては、拘束のデメリットを理解し関わっており、現状行動を制限する身体拘束者はいない。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠についても身体拘束であることを認識し、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するための工夫に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の知識向上やメンタルヘルスについて研修を行なうとともに、個人のストレスや技量を見極め、必要に応じて、助言や指導を行なって、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では不十分であり、権利擁護の理解を深めることは、今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて説明を行い、疑問に対しては、十分な説明をして、理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見をいただいた際はスタッフ、管理者、施設長と共有して、施設としてどのように対応していくか協議をし、家族にも返答している。	本人・家族、来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように意見箱を設置し、第三者へ申し出られるよう連絡先も明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで運営に対して職員も参画するよう意見を聞く機会を設けている。	定期的にユニット毎の会議や不定期ではあるが全体会議で職員からの意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映できるよう努めている。また、今後は全体会議を通じて職員の意思統一を図って行くよう検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度、労働条件を改め、やりがいを持って、長期的に就業できるよう改善を行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度の施設内外の研修計画をたて、各個人の資質向上と学ぶ機会が提供できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同地域の職種間交流にも積極的に参加し、相互交流を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族から十分な聞き取りを行い、サービスが開始になっても、不安なく利用できるよう関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族の意向や思い、看取りの希望の有無についても確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な聞き取りを行いつつも、他職種とも連携をとり、多角的な視点で援助の方向性を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、本人が得意なことや、希望を汲み取り、可能と判断したことは、声を掛け積極的に行っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来た際は近況報告を必ず行うとともに、家族の要望や思いを確認している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内には、以前から使用していた家具や仏壇を持ってきていただいております。馴染みのものがあることで、落ち着いて過ごせるよう努めている。	友人、知人など馴染みの人との交流が途切れないように、来訪支援や外出、外泊など希望にそえるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	花壇作りやおやつ作りなどを企画して、同じ目標を持って、双方に協力して達成できるように、また交流を深められるように援助を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は、必要に応じて情報提供や連携を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	心身の状態と合わせて、本人の思いを把握して生活に反映できるよう努めている。判断が困った場合は十分に検討をしている。家族からの情報やアドバイスを仰いでいる。	一人ひとりの意向や希望にそった暮らしが出来るよう情報の共有に努めている。また、介護計画に反映ができるよう検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談の際に必ず情報をいただき、施設での生活に取り入れていくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の変化に合わせて、申し送りやカンファレンスの中で適宜利用者の状況把握とケア内容について検討できている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケア内容を検討するため、適宜話し合いを行い、介護計画として作成できている。	本人、家族の希望や意向、介護スタッフからの意見やアイデアを反映できるよう介護計画を検討している。また、組織運営の見直しで現状に即した介護計画を作成し職員間で共有できるように改善に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、日誌、申し送りノートにて情報が共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内だけで検討せず、関係機関などにも相談をしてニーズに応えられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	残存能力を活用して、安全で安楽な生活が送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び、家族の希望を大事にし、適切な医療が受けられる様、支援している。受診が困難な方には往診が可能な医療機関を紹介している。	本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。また、日常の健康管理や通院等への送迎で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より看護職員と連携しており、利用者の急変時には必ず看護師に連絡をして、必要な指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適宜必要に応じて、電話連絡や来院をして、情報交換や相談をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	担当医や看護師と協働して、ホームで可能な限り支援できるよう努めている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練等は実績はないが、緊急時連絡網を作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。また町内会にも協力を依頼している。	消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を実施し、緊急時に地域の人々の協力が得られるように協力体制を築いている。	今後は、急変や事故発生時に備えて救急救命訓練の実施や行政への報告体制の整備に努めているので、その実践に期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前のその人を理解し、ホームでの生活となるべく落差がないよう、関わっている。	声掛けの工夫や一人ひとりに合わせたケアを行うよう職員間で話し合い、誇りやプライバシーを損ねないよう対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や思いが確認できた場合は、職員間で共有して、自己決定、実施ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	散歩や家事的なお手伝いを希望される方には対応できているが、全般的には日課に沿った生活となっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回訪問理容が来設し、希望される方は顔そり、パーマ、毛染めをしている。また季節の変わり目には家族に衣類の入れ替えをお願いして、季節に合った身だしなみができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お菓子作りや、食事の下膳等を行っていただくことで、楽しみや生きがいのひとつになるよう支援している。	一人ひとりの力や嗜好を把握しながら、食事の準備や片付け等を職員と一緒にできるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎回個人記録に記入して、確認できるようにしている。特に水分は個人に好みに応じれるよう種類を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ではないが、口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアが行えるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各利用者の担当職員が中心となって、排泄に関する支援について、他職員と検討、改善を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、事前の声掛けやトイレ誘導で、排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	担当医や看護師に相談をして、便秘にならないよう生活上でのアドバイスをいただいたり、下剤の調整を行ってもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回入浴ができるよう支援しているが、入浴日は曜日固定となっており、個人に沿った入浴の支援という面では、不十分である。	週2回の入浴を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に合わせて入浴支援をしている。また、重度化によって個々の意向に沿えない面もあるが、安全に安心して入浴ができるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	おおまかな日課はあるが、安眠や休息を妨げないよう、心身の状況や生活習慣には配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配役、服薬確認は必ず職員が行い、確実に服薬できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を理解して、ホーム生活でも継続できるよう支援しえている。野外活動や外出支援も積極的に行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や市内のイベントには希望を募り、外出ができるよう支援している。	一人ひとりのその日の希望にそって、家族と一緒に買い物や外出ができるよう支援をしたり、スーパーでの買い物や近隣散歩、町内会行事参加や夏祭り開催等で楽しみごとや戸外に出かけられるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は基本事務所で預かっているが、本人の希望や必要時には適宜使えるよう対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある場合は支援している。本人が自力で困難な場合は、職員がサポートをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節感のある飾りつけや、写真を飾り、親しみやすい空間作りを心掛けている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また共用空間では、季節毎の飾りつけ等で生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には食卓テーブルの他に、ソファを2か所設置しており、本人の気分に沿って、選べるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や馴染みの物をもってきていただいている。	使い慣れた家具や馴染みの品々を持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の身体状況や認知症状を考慮して、居室内の配置を検討して、安全で自立した生活が送れるよう努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902306		
法人名	有限会社 健昭会		
事業所名	グループホーム太陽と緑 (緑棟)		
所在地	旭川市旭神町19番地36		
自己評価作成日	平成27年6月26日	評価結果市町村受理日	平成27年7月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902306-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成27年7月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

時間にとらわれず、個々のペースで生活できる環境作りを目指しています。基本的な生活の安心感の中に、日々の中で幸せに感じる時間、楽しく過ごせる時をもってもらえるよう、会話を重視し一緒に過ごせる時間を特に大切にしています。より良い生活環境になるように、本人・家族との意見交換も頻繁に行っています。代表者と職員間も風通し良く、意見交換のしやすい環境です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼にて運営理念を復唱し、再確認を行いながら仕事につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事(清掃等)にできるだけ参加するようにし、特に古紙回収には貢献することができている。また、夏祭りには地域の方を呼んで、一緒に楽しんでもらうイベントと位置付けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて定期的に利用者の状態を報告している。避難訓練や夏祭りに参加してもらう事によって、利用者の実態を見て感じてもらい、質問等にも応じるよう心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を開催。地域で抱えている問題や、認知症の方の迷子や介護方法など、一緒に考える時間を共有している。町内会長を中心に、緊急時の対応など地域住民への周知に励んでくれている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困った点や疑問点など、積極的に問い合わせで指導いただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が日常的に目にする場所に「身体拘束防止に係る規程」を提示している。玄関の施錠に関しては、建物の構造上、オートロックシステムとなっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修にて虐待防止法について学び、施設内でも閲覧できるよう配慮している。今後は職員会議にて事例検討等行っていく予定。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や青年後見制度について研修等で学び、必要な方に説明できるよう知識の習得に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約には十分な説明時間を持ち、質問等も受けながら、理解を深めてもらっている。改定時には文章とともに、直接説明させてもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず家族とゆっくり会話する時間を持ち、家族と信頼関係を築ける環境作りに励んでいる。また、玄関の面会簿横に「ご意見箱」を設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各棟それぞれ、月一回のミーティングを開催し意見や提案をしやすい環境作りをしている。また、月一回の連絡調整会議を行い、各棟からの意見等を代表者へ報告し改善策の話し合いの場としている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から代表者へは随時、各職員の勤務状況を報告している。職員からの要望等への改革も行っており、意見の通りやすい環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部を問わず研修を奨励している。外部研修後は報告書を提出してもらい、全職員と共有できる環境を作っている。ケア方法などについては、月一回の会議にて随時話し合いを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修を通じて、ネットワーク作りを確保。意見交換や各々の問題点など勉強できる良い機会となっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時に、関係機関や本人、家族と十分話し合う時間を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人不在での面談を行うことによって、家族の真の要望等を引き出しやすい環境作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インフォーマルなサービスも含め、サービス内容の確認を本人、家族と一緒にやっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る仕事を依頼することで、同じ立場で持ちつ持たれつの関係性になるよう心がけている。また、隣に座ってゆっくり過ごせる時間を共有することを重視している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人と一緒に過ごす時間を大切にしてもらったうえで、すべての決定事項を家族と相談して決めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を含め、面会に来られた方とは自室にてゆっくり過ごせるようプライバシーの保護にも配慮している。外出時には本人の慣れ親しんだ場所を通るよう心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけ一同に会せる時間を持つようにして、一緒に体操や歌を歌うなどして、お互いに一体感が生まれるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談に乗れる体制作りを約束し、フォローできる環境作りに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む形で生活できるよう、自己決定を促しながら意思の確認ができるような会話を心がけている。意思表示の困難な方には、家族の意向を重視している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントに加え、入所後も本人や家族との会話の中で知り得た情報を全職員で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録を充実させることによって、その人らしい時間配分を配慮している。出来る日と出来ない日の見極めをしながら、無理のない生活ペースをしてもらっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前には、本人、家族からの意見を十分聞き、また医療分野からの意見もいただけるよう配慮して作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録には詳細まで記録するようにし、朝礼やミーティング時に見直しや検討を随時行えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人的なマッサージや特別な美容院の訪問など、本人のニーズに合わせて提案している。その都度、本人と家族に相談したうえで決定できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事に参加させていただいたり、家族の協力のもと、住み慣れた家へ外出できる機会を持ってもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時には病院の選択も含め、十分な話し合いをもっている。初受診時には家族に立ち会ってもらい主治医との関係作りを大切にしている。家族の要望、主治医からの指示など、その都度双方へ連絡調整している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の異常等は、その都度看護職員に報告相談して、指示を受けられる体制作りをしている。突発的な受診に関しても、看護師の指示を仰ぎ、時には病院へ同行してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず付き添いを行い、今までの生活状況について情報提供している。定期的に病院関係者と連絡を取り、現状や快方の見込みなど情報提供をお願いしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族としっかり話し合う機会を設け、今後のケア方法について共通理解できるようにしている。時期を見て同意書をいただき、家族の意見の再確認等を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成。全職員が目にしやすい場所に貼っており、定期的に確認を行うようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設としての緊急連絡網と、地域の方への連絡網を作成している。地域の方が緊急時にどのように行動すれば良いかをきちんと文章にて作成できている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの中にも礼儀を忘れず、声掛けを行うよう心がけている。自室にいる間やトイレ中には必ず居室のドアを閉め、プライバシーを守れるよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	簡単な意思表示ができる方には、自己決定できる場面を(二者択一など)日常の中に取り入れている。自らの思いが伝えられる人は、受容することで自らの答えが引き出せるような会話を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	体調や気分によって、散歩に連れ出したり一緒に作業をするなど、気分転換がはかれるよう配慮している。体調がすぐれない時には臥床時間を長くしたり、自由な時間配分を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の着替え時には気候を配慮して衣類選びを行っている。選択できる利用者には服を選んでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時には一緒にテーブルを囲んで、ゆっくりと会話を楽しみながら食べている。お膳拭きなど片付けは手伝ってもらうこともある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや摂取できる形態にして提供している。 (お茶が嫌いな人にはスポーツドリンク、減量気味の人には主食8分目など)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各居室にて口腔ケアを行っている。 各々に合わせて歯ブラシ・歯磨き粉・口腔ガーゼを使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中、夜間それぞれに合わせた排泄介助を行っている。自力排泄ができる方には、できるだけトイレにて介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や野菜摂取にも気を配り、午後からの体操も個々にあったものを取り入れて体を動かす配慮をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本的な曜日は決めているが、午前午後の入浴時間は、その人の体調に合わせて決めるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室以外にも、ソファにて寛いでもらう空間を設けたり、自由に休める環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにて服薬の説明書を保管し、いつでも情報が見られるようにしている。下剤などは各々その都度確認できるよう、ファイルに重要事項として保管し確認しやすくしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな人には、みんなで一緒に歌が歌える環境を作り、散歩が好きな人には少しの時間でも外に出られるよう配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望のあった時には、一緒に買い物へ出かけ気分転換をしてもらっている。前に住んでいた家に一時帰宅など、家族に協力してもらい行うことができる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる利用者がいないため、金銭管理は施設にて行っている。本人の購入希望にはその都度応えられるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には携帯電話の持ち込みは了承している。自分でかけられない方には、職員にて代行してかけて、自室で会話してもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の二重ドアによって、外から丸見えにならないよう配慮している。温度調節は施設全体と個々でできるようになっている。壁紙には季節の風物詩を飾るようにして季節感を味わってもらえるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで集めるスペースと、少し奥まった場所のソファでは、ひっそりゆっくりできる空間となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなじみの家具を持ってきてもらい、できるだけ違和感のない空間作りができるようにしている。介護に合わせた居室の模様替えも、本人や家族と相談しながら決めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々のレベルに合わせて、居室内の配置などを考慮し危険のないようにしている。目で見て確認できるよう、ドアに名前を貼ったり、トイレが分かりやすくなるよう張り紙をしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 太陽と緑

作成日: 平成 27年 7月 21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	13	施設内外の研修計画を立て、各個人の資質向上と学ぶ機会が必要	各職員は年2回以上、研修に参加する。	圏域グループホーム研修や市内で行われる小規模の研修にも積極的に参加する。認知症サポーターやメンタルヘルス、権利擁護についての研修は関係機関に依頼をして、施設内研修が開催できるようにする。	1年
2	34	急変、事故発生時の対応に対して、実践的な訓練が不十分である。	新旧職員が統一した対応ができる。	当ホームはAEDを設置しており、職員全員が初期対応に応じれる様、避難訓練時に消防職員から講習を受けることとする。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。